

## 改 善 計 画 書

地域計画の達成状況報告書において、未達成となった次の指標について改善計画を作成する。

1. 排出量（家庭系）
  - ・ 家庭系総排出量
  - ・ 家庭系 1 人当たりの排出量
2. 再生利用量
  - ・ 直接資源化量
  - ・ 総資源化量
3. 合併処理浄化槽等
  - ・ 汚水衛生処理人口

### 1 排出量（家庭系）

#### ①プラスチック類の削減

ビニール、合成樹脂などの廃プラスチック類は、容器包装ごみの分別を徹底することで一つの効果が上がっていると考えられます。

今後は、容器包装に該当しないプラスチック製品（おもちゃ、食器、日用品など）をリサイクルできないか検討して行きます。

#### ②厨芥類（生ごみ）の削減

ごみ質調査から、可燃ごみの 50%は水分であることがわかりました。特に生ごみは水分がほとんどで、これを削減することで、使用燃料量を抑えることができ化石燃料や二酸化炭素の削減につながります。

生ごみ削減の一つの施策として、ディスポーザーの導入があげられます。平成 25 年度から大和地域で一部導入が始まりました。平成 26 年度中には南魚沼市内全域で利用可能になる予定です。

ディスポーザーの導入により期待される効果として、次のような事が考えられます。

- ・ 焼却ごみの減少、二酸化炭素の発生抑制、燃料費などの削減
- ・ 可燃ごみ施設の延命化、高齢化社会でのごみ出し作業の軽減
- ・ 台所衛生環境の向上

#### ③3R の推進

家庭でできるごみの減量化を推進するために、①ごみを減らす（リデュース）②使える物は繰り返し使う（リユース）③使えなくなったら資源として再利用（リサイクル）する資源循環型社会を目指して、広報・ホームページ等で 3R の推進を啓発して行きます。

## 2. 再生利用量（直接資源化量・総資源化量）

### ①紙類

紙類は、汚れているものや特殊なものを除き、全て資源化できます。新聞、雑誌、チラシなどの分別は徹底されていますが、紙箱、紙類などの雑紙や飲料用紙パックなどは分別が進んでいないのが現状です。

これらの資源化について、広報などで周知啓発を図って行きます。

### ②小型家電

平成 25 年度 4 月に小型家電リサイクル法が施行されました。携帯電話やデジタルカメラ等の小型家電にはレアメタル等の有用金属が含まれており、これらを適正に処理することで資源を有効に利用することができます。

現在、認定業者が県内にないことから、市では、その他不燃ごみ、不燃性粗大ごみの中から対象品目を選別して、独自に有用金属を回収しています。

今後は、認定業者や他市町村の動向を見極めながら、回収方法や処理方法を検討して行きます。

## 3. 合併浄化槽等（污水衛生処理人口）

合併処理浄化槽未設置者に対し、浄化槽設置工事のアンケート調査を実施し、合併処理浄化槽の啓発と設置に対する意向確認を行い、引き続き循環型社会形成推進交付金を活用した整備を進めて行きます。